

救急救命学科 カリキュラム

〈1年次〉

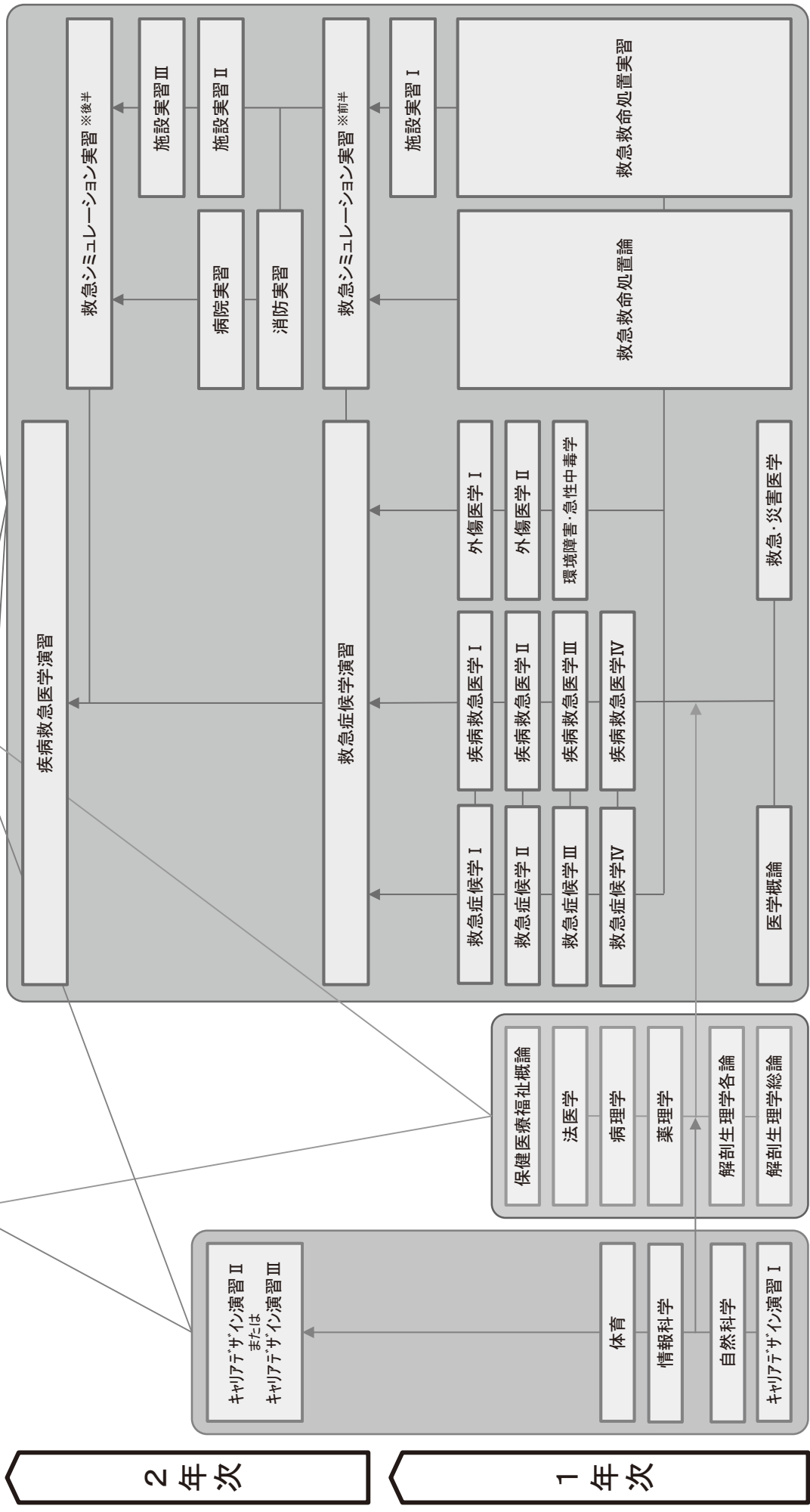
分野	教育内容	科目名	1年次		2年次		単位数	時間数	備考	厚生労働省基準
			単位数	時間数	単位数	時間数				
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と人間生活	自然科学	1	15			1	15		8
		情報科学	1	15			1	15		
		キャリアデザイン演習Ⅰ	4	120			4	120		
		キャリアデザイン演習Ⅱ			2	60	2	60	2科目のうち 1科目選択	
		キャリアデザイン演習Ⅲ								
	体育	2	60			2	60			
基礎分野	小計		8	210	2	60	10	270		8
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学総論	2	30			2	30		4
		解剖生理学各論	2	30			2	30		
	疾患の成り立ちと 回復の過程	薬理学	1	15			1	15		4
		病理学	2	30			2	30		
		法医学	1	15			1	15		
	健康と社会保障	保健医療福祉概論	2	30			2	30		2
専門基礎分野	小計		10	150	0	0	10	150		10
専門分野	救急医学概論	医学概論	1	15			1	15		6
		救急・災害医学	2	30			2	30		
		救急救命処置論	4	60			4	60		
	救急症候・病態生理学	救急症候学Ⅰ	2	30			2	30		8
		救急症候学Ⅱ	2	30			2	30		
		救急症候学Ⅲ	2	30			2	30		
		救急症候学Ⅳ	2	30			2	30		
		救急症候学演習			1	30	1	30		
	疾病救急医学	疾病救急医学Ⅰ	2	30			2	30		8
		疾病救急医学Ⅱ	2	30			2	30		
		疾病救急医学Ⅲ	2	30			2	30		
		疾病救急医学Ⅳ	2	30			2	30		
		疾病救急医学演習			3	90	3	90		
	外傷救急医学	外傷医学Ⅰ	2	30			2	30		4
		外傷医学Ⅱ	2	30			2	30		
	環境障害・急性中毒学	環境障害・急性中毒学	1	15			1	15		1
	臨地実習	救急救命処置実習	5	225			5	225		25
救急シミュレーション実習				8	360	8	360			
消防実習				4	180	4	180			
病院実習				5	225	5	225			
施設実習Ⅰ		1	45			1	45			
施設実習Ⅱ				1	45	1	45			
施設実習Ⅲ			1	45	1	45				
専門分野	小計		34	690	23	975	57	1665		52
	総計		52	1050	25	1035	77	2085		70

救急救命学教科カリキュラムツリー

人間性豊かで、協調性を持ち、何事にも積極的に取り組む、自ら学び続けることができる

修得した専門的知識を総合して症状・徴候を評価し、必要な処置を選択できる

傷病者に必要な救急救命処置を的確かつ安全に実施できる



1 年 次

令和6年度 前学期

時間割

救急救命学科 1年

		月	火	水	木	金
1	9:00~ 10:30	解剖生理学総論 岩永 解剖生理学各論 岩永	救急救命処置実習 後藤	キャリアデザイン演習 I 平島	解剖生理学総論 岩永 解剖生理学各論 岩永	救急救命処置論 後藤, 原富
2	10:40~ 12:10	情報科学 後藤	救急救命処置実習 後藤 救急・災害医学 池田	医学概論 岩永	自然科学 佐藤栄治	キャリアデザイン演習 I 小材
3	13:10~ 14:40		救急・災害医学 池田 救急救命処置実習 後藤	キャリアデザイン演習 I 後藤	救急救命処置実習 後藤	病理学 岩永
4	14:50~ 16:20		救急救命処置実習 後藤	保健医療福祉概論 仮屋		体育 大潮

令和6年度 後学期

時間割

救急救命学科 1年

		月	火	水	木	金
1	9:00~ 10:30		救急救命処置実習 後藤 疾病救急医学Ⅲ 川口	救急症候学 I 佐藤友子 救急救命処置論 後藤	環境障害・急性中毒学 後藤 疾病救急医学 I 赤坂	救急症候学Ⅱ 原富 救急救命処置実習 後藤
2	10:40~ 12:10	救急症候学Ⅳ 櫻井, 岡野	救急救命処置実習 後藤 疾病救急医学Ⅳ 岩永	外傷医学 I 後藤, 前原, 林田	法医学 米満孝聖 救急症候学Ⅱ 松園	救急救命処置論 田代 救急救命処置実習 後藤
3	13:10~ 14:40	救急症候学Ⅲ 山家 救急症候学 I 岩永	疾病救急医学Ⅳ 岩永 救急救命処置実習 後藤	疾病救急医学 I 原田 疾病救急医学Ⅱ 加藤	外傷医学Ⅱ 上園 救急症候学Ⅱ 前原	体育 大潮
4	14:50~ 16:20	外傷医学Ⅱ 後藤	疾病救急医学Ⅱ 松田 救急救命処置実習 後藤	疾病救急医学Ⅲ 非常勤講師	薬理学 松坂 救急症候学Ⅲ 米満弘一郎	

※「時間割」は変更されることがあります。

目次：救急救命学科 1 年次

自然科学	377
情報科学	377
キャリアデザイン演習 I	378
体育	379
解剖生理学総論	380
解剖生理学各論	381
薬理学	381
病理学	382
法医学	383
保健医療福祉概論	384
医学概論	385
救急・災害医学	386
救急救命処置論	387
救急症候学 I	388
救急症候学 II	389
救急症候学 III	390
救急症候学 IV	391
疾病救急医学 I	392
疾病救急医学 II	393
疾病救急医学 III	394
疾病救急医学 IV	395
外傷医学 I	396
外傷医学 II	397
環境障害・急性中毒学	398
救急救命処置実習	399
施設実習 I	400

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と人間生活	科目名	自然科学
代表講師	佐藤 栄 治 (元 熊本大学理学部)				
授業方法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：9回 (18時間)
授業概要	自然科学の一分野の生物学を通して、基本的な生物学的知識を学ぶとともに論理的思考力(筋道だったものの考え方)とは何かを考えていく。				
到達目標	生命の基本単位としての細胞とは何かを説明できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (100%)				
テキスト・教材等	『医療・看護系のための生物学』				
回 数	授 業 内 容				
第1回	生体構成元素誕生から生命誕生、人類進化はどのようなだったか				
第2回	生物分類学・博物学から分子生物学までの学問領域の進展はどのようなだったか				
第3回	生体構成物質の中で炭水化物・脂質・タンパク質とはなにか				
第4回	生体構成物質の中で核酸とDNAとはなにか				
第5回	細胞構造(細胞膜と細胞小器官の働き)はどうなっているか				
第6回	神経細胞の構造と機能、特に細胞が持つ静止膜電位とはなにか				
第7回	神経細胞の構造と機能、特に神経細胞が生じる活動電位とはなにか				
第8回	神経と筋肉、特に筋肉はどのようにして収縮するのか				
第9回	試 験				

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と人間生活	科目名	情報科学
代表講師	後藤 正 和 (救急救命士)				
授業方法	演 習	単位数	1	学期・回数	前期：9回 (18時間)
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な情報活用能力としてインターネットの検索やメールの利用方法などを学ぶ。 医療における統計学の必要性を理解すると共に表計算ソフトを用いて算出し、算出したデータ等を資料にまとめ発表する。 ※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> インターネットを利用して必要な情報を検索できる。 表計算ソフトの基本的な操作ができる。 ワードプロセッサソフトの基本的な操作ができる。 プレゼンテーションソフトの基本的な操作ができる。 プレゼンテーションソフトを用いて効果的なプレゼンテーションができる。 				
成績評価の方法と基準	課題①～③の評価の合計 (60%) ルーブリックを用いたプレゼンテーション評価 (40%)				
テキスト・教材等	(なし)				
回 数	授 業 内 容				
第1回	ガイダンス(授業の進め方と評価方法) インターネットを用いた情報の検索、著作権について学ぶ				
第2回	表計算ソフト(Microsoft Excel)の基本操作を学ぶ①				
第3回	表計算ソフト(Microsoft Excel)の基本操作を学ぶ② 課題①				
第4回	ワードプロセッサソフト(Microsoft Word)の基本操作を学ぶ①				
第5回	ワードプロセッサソフト(Microsoft Word)の基本操作を学ぶ② 課題②				
第6回	プレゼンテーションソフト(Microsoft PowerPoint)の基本操作を学ぶ①				
第7回	プレゼンテーションソフト(Microsoft PowerPoint)の基本操作を学ぶ② 課題③				
第8回	与えられた課題についてプレゼンテーションする(前半)				
第9回	与えられた課題についてプレゼンテーションする(後半)				

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と人間生活	科目名	キャリアデザイン演習 I
代表講師	後藤正和(救急救命士) 平島あや(臨床心理士・公認心理師) 小材美沙紀(臨床心理士)				
授業方法	講義・演習	単位数	4	学期・回数	前・後期:60回(120時間)
授業概要	<p>1. これまでとは異なった「主体的な学び方」を学び、職業人に必要な多様なコミュニケーション能力やキャリアプランニング能力等の基礎的・汎用的能力を総合的に学習する。</p> <p>2. 様々な心理学的視点から、自分への理解を得る。自分の日常生活や職業生活を見据えて、学びの中から得たことを活かし、自己を活かし適応への力を一層育むために必要なことを考える。ケアワークを体験する。</p> <p>3. 誕生から死まで人間がどのような発達過程をたどるのかを学習する。生物心理社会的視点から人間の発達過程をながめ、それぞれの発達段階で生じやすい課題と支援について考える。</p> <p>※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。</p>				
到達目標	<p>1. これまでの学び方を見直し、学ぶ内容に合わせた効果的・効率的な学習方法を選択できる。</p> <p>2. 職業講話、消防学校初任科卒業式見学をとおして自身の将来像を明確にできる。</p> <p>3. 自分自身を見つめ、必要なストレスケアや心理社会的スキルを見つけ、生活の中に取り入れることができるようになる。</p> <p>4. 発達の知識を臨床や支援の場で活用することを念頭に「正常な」発達とは何か、そこからの逸脱によって生じる課題、発達上の課題への支援について説明できる。</p>				
成績評価の方法と基準	<p>到達目標 1, 2: 学習設計、モチベーションマネジメントの課題内容 (20%)</p> <p>到達目標 3: ワークシート (20%)、レポート (20%)</p> <p>到達目標 4: 小テスト (20%)、レポート (20%)</p>				
テキスト・教材等	<p>学習設計 : 『学習設計マニュアル』</p> <p>心理学 : 『チーズはどこへ消えた?』</p> <p>人間発達学 : 『リハビリテーションのための人間発達学』</p>				
回数	授 業 内 容				担当講師
全1回	ガイダンス				後藤正和
全12回	学習設計(前期) 学習設計マニュアルを用いてこれまでとは異なった「主体的な学び方」を学ぶ。				〃
全13回	心理学(前期) 様々な心理学的視点から自分への理解を得る。				平島あや
全14回	人間発達学(前期) 誕生から死まで人間がどのような発達過程をたどるのかを学習する。				小材美沙紀
全2回	ビジネスマナー(前期) 社会人としてのマナーを学ぶ。				特別講師
全10回	モチベーションマネジメント 職業講話(前期4回、後期4回)、消防学校初任科卒業式(学校長査閲)見学(前期2回)				池田光隆
全8回	規律訓練(前期4回、後期4回) 消防機関で行われているいわゆる団体行動をとおして規律正しい態度を身に付ける。				池田光隆 後藤正和

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と人間生活	科目名	体 育
代 表 講 師	大 潮 八 郎				
授 業 方 法	講義・実技	単位数	2	学期・回数	前・後期：30回（60時間）
授 業 概 要	運動が生理機能に及ぼす影響を医科学的に学習する。				
到 達 目 標	トレーニング原理原則を理解し、パワー系・調整力系各体力の要素を高めるためのトレーニング方法ができる運動処方作成ができるようになる。				
成績評価の方法と基準	試験（70％） 平常点：目標の達成度（20％） 参加意欲（10％）				
テキスト・教材等	必要に応じて資料配布				
回 数	授 業 内 容				
第1回	教科ガイダンス 運動と生理機能の関係 行動体力 防衛体力 精神力				
第2回	トレーニング原理原則 運動処方				
第3回	体力測定①	パワー系種目	調整力系種目	第1回運動処方提出	
第4回	バドミントン①	基礎技術練習 ダブルスゲームとルール確認			
第5回	バドミントン② ダブルスゲーム開始				
第6回	バドミントン③ ダブルスゲームリーグ戦開始①				
第7回	体力測定②	第2回運動処方提出			
第8回	バドミントン④ ダブルスゲームリーグ戦②				
第9回	” ⑤	”	③		
第10回	” ⑥	”	④		
第11回	体力測定③	第3回運動処方提出			
第12回	バドミントン⑦ ダブルスゲームリーグ戦⑤				
第13回	” ⑧	”	⑥		
第14回	” ⑨	”	⑦		
第15回	体力測定④	第4回運動処方提出			
第16回	体力測定⑤	第5回運動処方提出			
第17回	バドミントン⑩ ダブルスゲームリーグ戦⑧				
第18回	” ⑪	”	⑨		
第19回	” ⑫	チーム（団体）リーグ戦①			
第20回	” ⑬	”	②		
第21回	体力測定⑥	第6回運動処方提出			
第22回	バドミントン⑭ チーム（団体）リーグ戦③				
第23回	” ⑮	”	④		
第24回	” ⑯	”	⑤		
第25回	体力測定⑦	第7回運動処方提出			
第26回	ミニソフトバレーボール① チーム（団体）リーグ戦①				
第27回	”	②	”	②	
第28回	”	③	”	③	
第29回	運動と呼吸循環器 運動と神経系 ATP産生機構				
第30回	体力測定⑧	体力総合評価			

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	人体の構造と機能	科目名	解剖生理学総論
代 表 講 師	岩 永 ひとみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	前期：15回 (30時間)
授 業 概 要	人体を構成する各器官の基本的構造と機能及び相互関係を学習する。 ※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。				
到 達 目 標	1. 人体の構造、構成、生命維持に関わる基礎知識について、系統別に概要を説明できる。 2. 人体解剖図を系統別に描写できる。				
成績評価の方法と基準	小テストの合計 (30%)、総括テスト (70%)				
テキスト・教材等	『改訂第5版 救急隊員標準テキスト』、『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』 Moodleに挙げる授業に関連する資料、ワークブック、人体模型 (骨格、人体、脳、心臓)				
回 数	授 業 内 容				
第1回	ガイダンス (授業の進め方と評価方法) 予習確認テスト (事前配布資料) と解説 解剖学と生理学から考える生きている仕組み：総論				
第2回	からだのつくり、医学的名称、演習、小テスト				
第3回	筋骨格系、小テスト				
第4回	栄養を取り込む仕組み (細胞編)：クエン酸回路とビタミン・ミネラルなどの補酵素、小テスト				
第5回	生きるために動く・考える・記憶する：神経系の概要①、小テスト				
第6回	生きるために動く・考える・記憶する：神経系の概要②、小テスト				
第7回	酸素を取り込む仕組み：呼吸器の概要、小テスト				
第8回	血液を廻らせる仕組み：循環器系の概要①、小テスト				
第9回	血液を廻らせる仕組み：循環器系の概要②、小テスト				
第10回	血液を一定に保つ仕組み：腎泌尿器系の概要、小テスト				
第11回	ホメオスターシス：体液バランス、小テスト				
第12回	自らを守る仕組みと臓器のネットワーク①：内分泌系の概要、小テスト				
第13回	自らを守る仕組みと臓器のネットワーク②：血液免疫系の概要、小テスト				
第14回	世代をつなぐ：生殖器系の概要、小テスト				
第15回	総括テストと解説：筆記試験、人体図を系統ごとに描く、クエン酸回路の仕組み				

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	人体の構造と機能	科目名	解剖生理学各論
代表講師	岩 永 ひとみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講 義	単位数	2	学期・回数	前期：15回 (30時間)
授業概要	人体を構成する各器官の構造と機能に関する各論を系統的・総合的に学習する。 ※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。				
到達目標	人体の構造、構成、働きについて、呼吸器系、循環器系、消化器系、神経系、感覚器系、腎泌尿器系、血液免疫系、内分泌系、生殖器系別に説明できる。				
成績評価の方法と基準	小テストの合計 (30%)、総括テスト (70%)				
テキスト・教材等	『改訂第5版 救急隊員標準テキスト』、『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』 Moodleに挙げる授業に関連する資料、ワークブック、人体模型 (骨格、人体、脳、心臓)				
回 数	授 業 内 容				
第1回	筋骨格系の解剖と働き、演習、小テスト				
第2回	呼吸器系の解剖と働き①、小テスト				
第3回	呼吸器系の解剖と働き②、小テスト				
第4回	循環器系の解剖と働き①、小テスト				
第5回	循環器系の解剖と働き②、小テスト				
第6回	泌尿器系の解剖と働き、小テスト				
第7回	細胞、消化器系の解剖と働き、小テスト				
第8回	消化器系の解剖と働き、小テスト				
第9回	神経系・感覚器系の解剖と働き、小テスト				
第10回	神経系の解剖と働き①、小テスト				
第11回	神経系の解剖と働き②、小テスト				
第12回	血液免疫系の解剖と働き、小テスト				
第13回	内分泌系の解剖と働き、小テスト				
第14回	生殖器系の解剖と働き、小テスト				
第15回	総括テストと解説				

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	疾患の成り立ちと 回復の過程	科目名	薬理学
代表講師	松 坂 大 輔 (所属：有限会社 呉服薬局)				
授業方法	講 義	単位数	1	学期・回数	後期：9回 (18時間)
授業概要	基本的な薬の種類、その効果・作用・副作用などを学ぶ。				
到達目標	薬の一般的な知識を理解する。薬と疾患を関連づけて理解する。				
成績評価の方法と基準	筆記試験の成績で評価する (100%)				
テキスト・教材等	講義毎に事前資料配布				
回 数	授 業 内 容				
第1回	概論・医薬品の基礎				
第2回	神経系の疾患と治療				
第3回	循環器系の疾患と治療①				
第4回	循環器系の疾患と治療②				
第5回	内分泌系の疾患と治療				
第6回	消化器系の疾患と治療				
第7回	呼吸器系の疾患と治療				
第8回	救急救命士の取り扱う薬剤・総まとめ				
第9回	試 験				

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	疾患の成り立ちと 回復の過程	科目名	病理学
代 表 講 師	岩 永 ひとみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	前期：15回 (30時間)
授 業 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 疾病の原因、身体に生じる変化や推移などを総合的に学習する。 ・ 感染の原因となる微生物の特徴、感染経路及び救急現場で問題となる感染症について理解すると共に、感染予防策と感染事故への対応について学習する。 ※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。				
到 達 目 標	<p>感染</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染の原因となる微生物を列挙し、特徴について説明できる。 2. 感染症の発症について、感染源、感染経路、宿主との関係から説明できる。 <p>感染症</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新興感染症、再興感染症、輸入感染症、耐性菌について説明できる。 2. 感染症法による主な感染症の症候について説明できる。 3. 食中毒の起因病原体で頻度の高いものを列挙できる。 4. 皮膚・軟部組織の代表的な感染症について説明できる。 5. 破傷風、ガス壊疽、疥癬について簡単に説明できる。 <p>感染症対策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 標準予防策の意義と内容について説明できる。 2. 清潔と不潔の概念について説明できる。 3. 洗浄・消毒・滅菌の定義と対象資器材について説明できる。 4. 代表的な消毒薬の特徴と注意点について説明できる。 5. 救急救命士が遭遇し得る感染事故を列挙し、事故後の対応について説明できる。 <p>疾患</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患の原因について主因・誘因、内因・外因、遺伝要因・環境要因に分けて説明できる。 2. 予防医学について一次予防、二次予防、三次予防に分けて説明できる。 <p>細胞傷害 炎症</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞傷害とその要因について説明できる。 1. 炎症とは何か説明できる。 2. 炎症が全身に及ぼす影響について説明できる。 <p>循環障害 腫瘍</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 虚血、梗塞、うっ血、浮腫、出血、血栓、塞栓の原因、病態について説明できる。 1. 腫瘍とは何かを増殖制御と関連させながら説明できる。 <p>損傷と治癒</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 創傷の一次治癒と二次治癒について説明できる。 				
成績評価の方法と基準	小テストの合計 (30%)、総括テスト (70%)				
テキスト・教材等	『改訂第5版 救急隊員標準テキスト』、『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』				
回 数	授 業 内 容				
第1回	ガイダンス (授業の進め方と評価方法)、医療従事者としての感染症対策と心得について学ぶ (演習)				
第2回	感染について学ぶ、小テスト				
第3回	感染症について学ぶ①、小テスト				
第4回	感染症について学ぶ②、小テスト				
第5回	感染症について学ぶ③、小テスト				
第6回	感染症について学ぶ④、小テスト				
第7回	総括テスト①・振り返り				
第8回	感染対策について学ぶ①、小テスト				
第9回	感染対策について学ぶ②、小テスト				
第10回	総括テスト②・振り返り				
第11回	疾患の成り立ちと回復過程について学ぶ①、小テスト				
第12回	疾患の成り立ちと回復過程について学ぶ②、小テスト				
第13回	疾患の成り立ちと回復過程について学ぶ③、小テスト				
第14回	疾患の成り立ちと回復過程について学ぶ④、小テスト				
第15回	総括テスト③・振り返り				

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	疾患の成り立ちと回復の過程	科目名	法医学
代 表 講 師	米 満 孝 聖 (元 熊本大学大学院生命科学研究部)				
授 業 方 法	講 義	単位数	1	学期・回数	後期：9回(18時間)
授 業 概 要	救急救命士に必要な法医学的知識を習得して、救急医療におけるその重要性を理解できる。				
到 達 目 標	特に、異状死の死因究明制度と救急医療との関わりについて理解できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験(90%)、出席点(10%)				
テキスト・教材等	『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』、配布資料				
回 数	授 業 内 容				
第1回	法医学の目的と意義：医学の中における法医学の位置づけ、法医学の歴史、関連領域				
第2回	死と死の判定：生から死への過程、三徴候説、脳死、死の確徴と不確徴				
第3回	死体現象：早期死体現象、晩期死体現象、死後経過時間				
第4回	人の死と死後の手続き：死亡診断書と死体検案書、検視と検案、法医解剖、異状死				
第5回	死因各論(1)：内因死と外因死、内因性急死、損傷死				
第6回	死因各論(2)：窒息死、溺死、異常環境死、中毒死				
第7回	大災害と法医学：救急医療と法医学、大量災害死、法歯学				
第8回	医事法制：医療と法律、医療従事者と患者の関係、患者の権利				
第9回	試 験				

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	健康と社会保障	科目名	保健医療福祉概論
代 表 講 師	仮 屋 葵 (社会福祉士・救急救命士)				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	前期：15回 (30時間)
授 業 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣や予防、医療制度の分析を通じて、地域社会や個人の健康に関することを学習する。 ・保健、医療、福祉の基本的な概念とその関連法律・制度を学び、社会的な健康や医療・福祉サービスの仕組みを学習する。 ※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。				
到 達 目 標	保健医療制度の仕組みと現状 <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活習慣や予防、医療制度について説明できる。 2. 地域社会や個人の健康について説明できる 社会保障と社会福祉 <ol style="list-style-type: none"> 1. 保険、医療、福祉の基本的な概念について説明できる。 2. その関連法律、制度について説明できる。 3. その社会的な健康や医療・福祉サービスの仕組みについて説明できる。 				
成績評価の方法と基準	小テストの合計 (20%)、中間テストの合計 (40%)、総括テスト (40%)				
テキスト・教材等	『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』				
回 数	授 業 内 容				
第1回	ガイダンス 健康について学ぶ、小テスト				
第2回	公衆衛生について学ぶ、小テスト				
第3回	医療を取り巻く環境について学ぶ①、小テスト				
第4回	医療を取り巻く環境について学ぶ②、小テスト				
第5回	医療供給体制について学ぶ、小テスト				
第6回	さまざまな保健衛生について学ぶ、小テスト				
第7回	中間テストと解説				
第8回	社会保障について学ぶ、テスト				
第9回	保険制度について学ぶ、小テスト				
第10回	児童福祉について学ぶ、小テスト				
第11回	障がい者福祉について学ぶ、小テスト				
第12回	高齢者福祉について学ぶ、小テスト				
第13回	生活保護制度について学ぶ、小テスト				
第14回	中間テストと解説				
第15回	総括テストと解説				

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	救急医学概論	科目名	医学概論
代 表 講 師	岩 永 ひとみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	演習・講義	単位数	1	学期・回数	前期：9回 (18時間)
授 業 概 要	生命倫理と医療倫理の基本的な考え方を学習し、地域における救急救命士の役割を考える。 ※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。				
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命倫理の4つの原則を列挙し説明できる。 2. 生命倫理の4つの原則について例示できる。 3. 医療における倫理観の偏移について説明できる。 4. 救急医療におけるインフォームドコンセントの特徴について説明できる。 5. QOL、リビングウィルについて説明できる。 6. 死生観と救急救命士として働く職業観を表現できる。 				
成績評価の方法と基準	グループワーク記録票による評価 (20%)、ループリックを用いた感想文評価 (20%)、総括テスト (60%)				
テキスト・教材等	『改訂第5版 救急隊員標準テキスト』、『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』、配布資料、DVD				
回 数	授 業 内 容				
第1回	ガイダンス (授業の進め方と評価方法) 医療における倫理観の偏移について				
第2回	グループワーク：信用と責任についてANA 職員の教育から考える「信用できる人はどんなひと?」「仁義礼智信」の解説 グループワーク記録票提出				
第3回	地域ケアシステムとアドバンスケアプランニングについて① DNARとリビングウィル、尊厳死・安楽死の違いを知る 個人ワーク「90歳の私の死」				
第4回 ～ 第6回	DVD視聴を通して死生観について考える グループワーク：登場人物の「死を受け入れること」について考える グループワーク記録票提出				
第7回	DVDを視聴し、自身の死生観を育む 感想文提出				
第8回	地域ケアシステムとアドバンスケアプランニングについて② DNARとリビングウィルを医療倫理の四原則から考える				
第9回	総括テスト グループワーク：採用側の立場で考える「欲しい人材像」 到達目標3について意見交換とグループワーク記録票提出				

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	救急医学概論	科目名	救急・災害医学
代表講師	池田光隆（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授業方法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	前期：15回（30時間）
授業概要	<p>・救急救命士誕生から今日までを振り返りながら、救急救命士にはどのような知識・技術・技能が求められているかを学習すると共に今後どのようなことが求められるかを考察する。</p> <p>・災害現場での実動経験者からの講話をとおして災害医療体制について学習する。</p> <p>※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。</p>				
到達目標	<p>救急医療体制</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. わが国の救急医療体制について簡単に説明できる。 2. 救急搬送体制について説明できる。 3. 救急搬送について説明できる。 4. 医療機関の役割と要件について説明できる。 5. 救急医療体制について簡単に説明できる。 6. メディカルコントロールについて説明できる。 <p>消防機関における救急活動の流れについて説明できる。 救急活動時のコミュニケーションについて説明できる。 救急救命士に関連する法令について説明できる。 救急救命士の生涯教育について説明できる。 安全管理と事故対応について説明できる。 ストレスに対するマネジメントについて説明できる。</p> <p>災害医療体制</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害の定義について説明できる。 2. 多数傷病者発生時の最先着隊の活動について説明できる。 3. トリアージの概念と目的について説明できる。 4. 災害対応における他機関との連携について説明できる。 				
成績評価の方法と基準	小テストの合計（60%）、ルーブリックを用いたレポート評価（40%）				
テキスト・教材等	『改訂第5版 救急隊員標準テキスト』、『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』 『改訂2版補訂版 JPTEC ガイドブック』、『標準 多数傷病者対応 MCLS テキスト』				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	ガイダンス（授業の進め方と評価方法） 救急医療体制について学ぶ①、小テスト				池田光隆
第2回	救急医療体制について学ぶ②、小テスト				〃
第3回	救急医療体制について学ぶ③、小テスト				〃
第4回	消防機関における救急活動の流れについて学ぶ、小テスト				〃
第5回	救急活動時のコミュニケーションについて学ぶ、小テスト				〃
第6回	救急救命士に関連する法令について学ぶ①、小テスト				〃
第7回	救急救命士に関連する法令について学ぶ②、小テスト				〃
第8回	救急救命士の生涯教育について学ぶ、小テスト				〃
第9回	安全管理と事故対策について学ぶ、小テスト				〃
第10回	ストレスに対するマネジメントについて学ぶ、小テスト				〃
第11回	災害医療体制について学ぶ①、レポート				特別講師
第12回	災害医療体制について学ぶ②、レポート				〃
第13回	災害医療体制について学ぶ③、レポート				〃
第14回	フィールドワーク①、レポート				池田光隆
第15回	フィールドワーク②、レポート				〃

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	救急医学概論	科目名	救急救命処置論
代表講師	後藤正和(救急救命士) 田代尊久(所属:悠愛病院院長) 原富由香(所属:熊本赤十字病院第三救急科部長)				
授業方法	講義・実技	単位数	4	学期・回数	前・後期:30回(60時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	元消防官の救急救命士と現役医師が、救急医療の経験を活かし、救急救命処置の原理と適用及び観察要領について講義する。				
授業概要	1. 救急救命処置実習と関連し、救急救命士が行う処置の目的、適応、手順、注意点についてそれぞれ学習する。 2. シミュレーション実習に向けて、観察の総論、各論について学習する。 ※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。				
到達目標	救急救命士が行う処置 1. 各救急救命処置の適応、禁忌、方法と手順、評価、注意点、合併症について説明できる。 資機材による観察 1. 各資機材の適応、構造・原理、方法、評価、注意点について説明できる。 観察 1. バイタルサインの概念を説明し、具体的な項目を列挙できる。 2. 問診の意義、方法、聴取すべき事項について説明できる。 3. 問診以外の基本的観察方法を列挙し、説明できる。 4. 全身状態の基本的観察方法を列挙し、説明できる。 5. 局所の基本的観察方法を列挙し、説明できる。 6. 神経所見の基本的観察方法を列挙し、説明できる。 緊急度・重症度判断 1. 緊急度と重症度の概念、判断、目的について説明できる。				
成績評価の方法と基準	小テストの合計(20%)、中間テスト(40%)、総括テスト(40%)				
テキスト・教材等	『改訂第5版 救急隊員標準テキスト』、『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』 『改訂6版 救急蘇生法の指針2020(市民用・解説編)』、『改訂6版 救急蘇生法の指針2020(医療従事者用)』 『改訂第2版補訂版 JPTEC ガイドブック』、『PEMEC ガイドブック 2023』				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	ガイダンス(授業の進め方と評価方法) 市民が行う救急蘇生法の概要について学ぶ、小テスト				後藤正和
第2回	市民が行う一次救命処置(心肺蘇生とAED)について学ぶ、小テスト				〃
第3回	ファーストエイド(体位管理、搬送法、止血、被覆、四肢固定)について学ぶ、小テスト				〃
第4回	外傷処置(脊椎運動制限、創傷固定ほか)について学ぶ、小テスト				〃
第5回～第6回	気道確保・呼吸管理(気道異物除去、気道確保、酸素投与・人工呼吸)について学ぶ、小テスト				〃
第7回	中間テスト①、解説				〃
第8回～第9回	資機材による観察(パルスオキシメーター、カプノメーター、聴診器、血圧計、体温計)について学ぶ、小テスト				〃
第10回～第14回	医療機関における検査について学ぶ、小テスト				原富由香
第15回	中間テスト②、解説				後藤正和
第16回～第20回	心肺停止及び医療従事者が行う救急蘇生法について学ぶ、小テスト				田代尊久
第21回	特定行為(血糖測定含む)について学ぶ、小テスト				後藤正和
第22回	中間テスト③、解説				〃
第23回～第24回	観察について学ぶ、小テスト				〃
第25回～第26回	指導技法				〃
第30回	総括テスト、解説				〃

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	救急症候・病態生理学	科目名	救急症候学 I
代表講師	岩 永 ひとみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院) 佐 藤 友 子 (所属：済生会熊本病院救急科副部長)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	後期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	現役医師が、救急医療の経験を活かし、救急医療に関連の深い症状や徴候から疾患単位の知識と傷病者に対する理論的な対応について講義する。				
授 業 概 要	意識障害、頭痛、めまい、痙攣、運動麻痺、一過性意識消失と失神を呈する疾患単位の知識と観察・評価・処置及び搬送に必要な知識を系統的に学習する。 ※授業連絡や資料配布等には Moodle を利用する。				
到達目標	<p>意識障害</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一次性脳病変と二次性脳病変による意識障害の特徴について説明できる。 2. 意識障害の代表的な原因疾患を列挙し、判断の手がかりについて説明できる。 3. 意識障害で観察される特徴的な随伴症候を説明し、代表的疾患・病態を列挙できる。 4. 緊急度・重症度の高い意識障害について説明できる。 5. 意識障害の傷病者に共通する基本的な観察、処置、医療機関選定について説明できる。 <p>頭痛</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一次性頭痛と二次性頭痛の概念、相対的頻度について説明できる。 2. 頭痛の性状と随伴症候からみて緊急度・重症度の高い頭痛について説明できる。 3. 頭痛の傷病者に共通する基本的な観察事項、処置、医療機関選定について説明できる。 <p>痙攣</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 痙攣の原因となる主な脳疾患と全身的病態を列挙し、判断の手がかりを説明できる。 2. 痙攣をきたす疾患で緊急度・重症度の高いものを列挙できる。 3. 痙攣中の傷病者に対する基本的処置、医療機関選定について説明できる。 <p>運動麻痺</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動麻痺の発症機序について説明できる。 2. 運動麻痺を分布によって分類し、代表的な障害部位を説明できる。 3. 運動麻痺の傷病者に共通する基本的な観察、処置、医療機関選定について説明できる。 <p>めまい</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. めまいを性状や病変の部位により分類し、説明できる。 2. 発症様式と随伴症候からみて緊急度・重症度の高いめまいについて説明できる。 3. めまいを訴える傷病者に対する観察の要点、処置、医療機関選定について説明できる。 <p>一過性意識消失と失神</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 失神の定義を説明できる。 2. 緊急度・重症度の高い失神をきたす原因疾患を列挙できる。 3. 失神の傷病者に対する基本的な処置、医療機関選定について説明できる。 				
成績評価の方法と基準	小テストの合計 (20%)、中間テストの合計 (30%)、総括テスト (50%)				
テキスト・教材等	『改訂第5版 救急隊員標準テキスト』、『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	ガイダンス (授業の進め方と評価方法)、前期授業確認テスト				岩永ひとみ
第2回	意識障害について学ぶ、小テスト				佐藤友子
第3回	頭痛について学ぶ①、小テスト				〃
第4回	頭痛について学ぶ②、小テスト				〃
第5回	めまいについて学ぶ①、小テスト				〃
第6回	めまいについて学ぶ②、小テスト				〃
第7回	中間テスト①・解説				岩永ひとみ
第8回	痙攣について学ぶ①、小テスト				〃
第9回	痙攣について学ぶ②、小テスト				〃
第10回	運動麻痺について学ぶ①、小テスト				〃
第11回	運動麻痺について学ぶ②、小テスト				〃
第12回	一過性意識消失と失神、小テスト				〃
第13回	中間テスト②・解説				〃
第14回	演習				〃
第15回	総括テスト・振り返り				〃

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	救急症候・病態生理学	科目名	救急症候学Ⅱ
代表講師	岩 永 ひとみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院) 前 原 潤 一 (所属：済生会熊本病院救急科部長) 松 園 幸 雅 (所属：荒尾市民病院統括診療部長 兼 救急科部長 兼 HCU 部長) 原 富 由 香 (所属：熊本赤十字病院第三救急科部長)				
授業方法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	後期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	現役医師が、救急医療の経験を活かし、救急医療に関連の深い症状や徴候から疾患単位の知識と傷病者に対する理論的な対応について講義する。				
授業概要	胸痛、動悸、腰痛・背部痛を呈する疾患単位の知識と観察・評価・処置及び搬送に必要な知識を系統的に学習する。 ※授業連絡や資料配布等には Moodle を利用する。				
到達目標	<p>胸痛</p> <ol style="list-style-type: none"> 胸痛の発生機序を3つに分類し、代表的疾患を列挙できる。 性状と随伴症候からみて緊急度・重症度の高い胸痛について説明できる。 胸痛を訴える傷病者に対する観察事項、処置、医療機関選定について説明できる。 <p>動 悸</p> <ol style="list-style-type: none"> 動悸の原因となる心疾患と心疾患以外のものを列挙できる。 緊急度・重症度の高い動悸について説明できる。 動悸を訴える傷病者に対する観察事項、処置、医療機関選定について説明できる。 <p>心不全</p> <ol style="list-style-type: none"> 心不全の定義を説明できる。 心不全における心機能、神経系と内分泌の反応について説明できる。 心不全症候を心拍出量減少、肺うっ血に、体循環系のうっ血によるものに分類できる。 <p>腰痛・背部痛</p> <ol style="list-style-type: none"> 腰痛・背部痛の原因となる内臓疾患を列挙できる。 性状と随伴症候から緊急度・重症度の高い腰痛・背部痛について説明できる。 腰痛・背部痛を訴える傷病者の観察、処置、医療機関選定について説明できる。 <p>循環器系疾患</p> <ol style="list-style-type: none"> 循環系疾患で重要な症候をあげ、それぞれ簡単に説明できる。 虚血性心疾患と急性冠症候群の概念について、それぞれ説明できる。 急性大動脈解離、大動脈瘤の疫学、概念、病因、病態、症候、現場活動について説明できる。 深部静脈血栓症について簡単に説明できる。 高血圧緊急症について説明できる。 				
成績評価の方法と基準	小テストの合計 (20%)、総括テストの合計 (80%)				
テキスト・教材等	『改訂第5版 救急隊員標準テキスト』、『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	ガイダンス (授業の進め方と評価方法)、前期授業確認テスト				岩永ひとみ
第2回	胸痛について学ぶ、小テスト				原富由香
第3回	動悸について学ぶ、小テスト				〃
第4回	循環系疾患について学ぶ①、小テスト				〃
第5回	循環系疾患について学ぶ②、小テスト				〃
第6回	循環系疾患について学ぶ③、小テスト				〃
第7回	心不全について学ぶ①、小テスト				前原潤一
第8回	心不全について学ぶ②、小テスト				〃
第9回	総括テスト②・振返り				岩永ひとみ
第10回	腰痛・背部痛について学ぶ、小テスト				松園幸雅
第11回	循環系疾患について学ぶ④、小テスト				〃
第12回	循環系疾患について学ぶ⑤、小テスト				〃
第13回	循環系疾患について学ぶ⑥、小テスト				〃
第14回	循環系疾患について学ぶ⑦、小テスト				〃
第15回	総括テスト②・振返り				岩永ひとみ

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	救急症候・病態生理学	科目名	救急症候学Ⅲ
代表講師	岩 永 ひとみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院) 米 満 弘一郎 (所属：熊本機能病院理事長) 山 家 純 一 (所属：熊本赤十字病院第二救急科部長)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	後期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	現役医師が、救急医療の経験を活かし、救急医療に関連の深い症状や徴候から疾患単位の知識と傷病者に対する理論的な対応について講義する。				
授 業 概 要	腹痛、吐血・下血を呈する疾患単位の知識と観察・評価・処置及び搬送に必要な知識を系統的に学習する。 ※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。				
到達目標	腹 痛 1. 腹痛を内臓痛、体性痛、関連痛に分類し、機序について説明できる。 2. 腹痛の原因となる代表的な疾患を列挙し、判断の手がかりについて説明できる。 3. 腹痛の傷病者で重要な既往歴を列挙し、関連する腹痛の原因疾患を列挙できる。 4. 腹痛の傷病者で注意すべき随伴症候を列挙し、観察される疾患または病態を列挙できる。 5. 性状と随伴症候からみて緊急度・重症度の高い胸痛について説明できる。 6. 腹痛を訴える傷病者の緊急度・重症度判断、観察、処置、医療機関選定について説明できる。 吐血・下血 1. 吐血と下血の定義と、消化管出血が生体に及ぼす影響について説明できる。 2. 上部消化管出血および下部消化管出血の定義を説明できる。 3. 吐血それぞれ/main原因疾患を列挙し、判断の手がかりについて説明できる。 4. 緊急度・重症度の高い吐血の原因疾患について説明できる。 5. 吐血の傷病者に対する観察事項、処置、医療機関選定について説明できる。 消化器系疾患 1. 急性腹症の概念を理解し、緊急度の高い病態を列挙できる。 2. イレウス・腸閉塞の鑑別ができ、原因、病態、症候、現場活動について説明できる。 3. 消化管疾患の病因、病態、症候、現場活動について説明できる。				
成績評価の方法と基準	小テストの合計 (20%)、中間テストの合計 (30%)、総括テスト (50%)				
テキスト・教材等	『改訂第5版 救急隊員標準テキスト』、『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	ガイダンス (授業の進め方と評価方法)、前期授業確認テスト				岩永ひとみ
第2回	腹痛について学ぶ①、小テスト				山家純一
第3回	腹痛について学ぶ②、小テスト				〃
第4回	腹痛について学ぶ③、小テスト				〃
第5回	吐血・下血について学ぶ、小テスト				〃
第6回	腹痛、吐血・下血の緊急度・重症度の判断、現場活動について学ぶ、小テスト				〃
第7回	中間テスト①・解説				岩永ひとみ
第8回	消化系疾患について学ぶ①、小テスト				米満弘一郎
第9回	消化系疾患について学ぶ②、小テスト				〃
第10回	消化系疾患について学ぶ③、小テスト				〃
第11回	消化系疾患について学ぶ④、小テスト				〃
第12回	消化系疾患について学ぶ⑤、小テスト				〃
第13回	中間テスト②・解説				岩永ひとみ
第14回	演習				〃
第15回	総括テスト・振り返り				〃

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	救急症候・病態生理学	科目名	救急症候学IV
代表講師	岩 永 ひとみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院) 櫻 井 聖 大 (所属：熊本医療センター救命救急科部長) 岡 野 雄 一 (所属：熊本赤十字病院集中治療科副部長)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	後期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	現役医師が、救急医療の経験を活かし、救急医療に関連の深い症状や徴候から疾患単位の知識と傷病者に対する理論的な対応について講義する。				
授 業 概 要	呼吸系疾患の病態生理から疾患単位の知識と観察・評価・処置及び搬送に必要な知識を系統的に学習する。 ※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。				
到達目標	<p>呼吸不全</p> <ol style="list-style-type: none"> 呼吸不全の定義を説明できる。 低酸素血症が生体に及ぼす影響と代償機構について説明できる。 高二酸化炭素血症が生体に及ぼす影響について説明できる。 CO₂ナルコーシスの概念や発症機序、症候、対応について説明できる。 急性呼吸不全、慢性呼吸不全の代表的な原因疾患を列挙できる。 <p>呼吸困難</p> <ol style="list-style-type: none"> 呼吸困難を吸気性と呼気性および混合性に分け、代表的な原因疾患を列挙できる。 急性の呼吸困難の原因となる代表的な疾患を列挙し、判断の手がかりについて説明できる。 緊急度・重症度の高い呼吸困難をきたす原因疾患を列挙できる。 呼吸困難を訴える傷病者に対する観察、処置の要点、医療機関選定について説明できる。 <p>喀血</p> <ol style="list-style-type: none"> 喀血の定義を説明できる。 喀血の原因となる代表的な呼吸系疾患を列挙し、判断の手がかりについて説明できる。 喀血の傷病者に対する観察、基本的処置、医療機関選定について説明できる。 <p>呼吸系疾患</p> <ol style="list-style-type: none"> 呼吸系疾患の主要な症候を列挙し、説明できる。 呼吸系疾患の傷病者で観察すべき事項を列挙し、緊急度・重症度の判断について説明できる。 呼吸系疾患の主な随伴症候を列挙し、代表的な原因疾患を列挙できる。 呼吸系疾患傷病者の処置・搬送の要点について説明できる。 急性の上気道閉塞をきたす感染症を列挙し、説明できる。 下気道の代表的疾患を列挙し、病態、症候、観察、処置について説明できる。 				
成績評価の方法と基準	小テストの合計 (20%)、中間テストの合計 (30%)、総括テスト (50%)				
テキスト・教材等	『改訂第5版 救急隊員標準テキスト』、『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	ガイダンス (授業の進め方と評価方法)、前期授業確認テスト				岩永ひとみ
第2回	呼吸困難について学ぶ①、小テスト				櫻井聖大
第3回	呼吸困難について学ぶ②、小テスト				〃
第4回	呼吸困難について学ぶ③、小テスト				〃
第5回	呼吸不全について学ぶ①、小テスト				〃
第6回	呼吸不全について学ぶ②、小テスト				〃
第7回	中間テスト①・解説				岩永ひとみ
第8回	呼吸系疾患について学ぶ①、小テスト				岡野雄一
第9回	呼吸系疾患について学ぶ②、小テスト				〃
第10回	呼吸系疾患について学ぶ③、小テスト				〃
第11回	呼吸系疾患について学ぶ④、小テスト				〃
第12回	呼吸系疾患について学ぶ⑤、小テスト				〃
第13回	中間テスト②・解説				岩永ひとみ
第14回	演習				〃
第15回	総括テスト・振り返り				〃

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	疾病救急医学	科目名	疾病救急医学 I
代表講師	岩 永 ひとみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院) 赤 坂 威 史 (所属：熊本市市民病院救急科部長) 原 田 正 公 (所属：熊本市市民病院救急科部長)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	後期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	現役医師が、救急医療の経験を活かし、救急疾病に関係の深い病態生理から疾患単位の知識と傷病者に対する理論的な対応について講義する。				
授 業 概 要	神経系疾患の病態生理から疾患単位の知識と観察・評価・処置及び搬送に必要な知識を系統的に学習する。 ※授業連絡や資料配布等には Moodle を利用する。				
到 達 目 標	重症脳障害 1. 意識障害について、意識レベルの低下、意識内容の異常、意識の狭窄から説明できる。 2. 意識障害の発症機序について、脳血流、脳代謝、脳幹障害の面から説明できる。 3. 頭蓋内圧亢進による意識障害の機序について説明できる。 4. 重要な脳ヘルニアを列挙し、説明できる。 5. 遷延性意識障害について、脳死との違いを含めて説明できる。 神経系疾患 1. 神経系の救急疾患で重要な症候を列挙し、説明できる。 2. 神経系疾患の傷病者に共通する現場活動について説明できる。 3. 脳卒中の主な疾患を列挙し、種類、病因、病態、症候、現場活動について説明できる。 4. 中枢神経系感染症の主な疾患を列挙し、原因、症候について説明できる。 5. 末梢神経疾患の主な疾患を列挙し、病態、症候、現場活動について説明できる。 6. てんかんの概念、原因、病態、発作の種類と症候、現場活動について説明できる。 7. 脳腫瘍について簡単に説明できる。 8. 代表的な神経変性疾患をいくつか列挙し、説明できる。				
成績評価の方法と基準	小テストの合計 (20%)、中間テストの合計 (30%)、総括テスト (50%)				
テキスト・教材等	『改訂第5版 救急隊員標準テキスト』、『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	ガイダンス (授業の進め方と評価方法)、前期授業確認テスト				岩永ひとみ
第2回	重症脳障害について学ぶ①、小テスト				原田正公
第3回	重症脳障害について学ぶ②、小テスト				〃
第4回	重症脳障害について学ぶ③、小テスト				〃
第5回	重症脳障害について学ぶ④、小テスト				〃
第6回	重症脳障害について学ぶ⑤、小テスト				〃
第7回	中間テスト①・解説				岩永ひとみ
第8回	神経系疾患について学ぶ①、小テスト				赤坂威史
第9回	神経系疾患について学ぶ②、小テスト				〃
第10回	神経系疾患について学ぶ③、小テスト				〃
第11回	神経系疾患について学ぶ④、小テスト				〃
第12回	神経系疾患について学ぶ⑤、小テスト				〃
第13回	中間テスト②・解説				岩永ひとみ
第14回	演習				〃
第15回	総括テスト・振り返り				〃

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	疾病救急医学	科目名	疾病救急医学Ⅱ
代表講師	岩 永 ひとみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院) 松 田 浩 史 (所属：くまもと県北病院副院長 兼 糖尿病・内分泌科部長) 加 藤 陽 一 (所属：熊本赤十字病院第一救急科部長)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	後期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	現役医師が、救急医療の経験を活かし、救急疾病に関係の深い病態生理から疾患単位の知識と傷病者に対する理論的な対応について講義する。				
授 業 概 要	代謝・内分泌・栄養系疾患、血液・免疫系疾患それぞれの病態生理から疾患単位の知識と観察・評価・処置及び搬送に必要な知識を系統的に学習する。 ※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。				
到達目標	<p>代謝・内分泌・栄養系疾患</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 糖尿病の病態、症候、合併症、薬物治療について説明できる。 2. 低血糖の原因、病態、症候、処置について説明できる。 3. 急性代謝失調のうち高血糖をきたすものを列挙し、説明できる。 4. 甲状腺、副腎の機能亢進と機能低下について、説明できる。 5. 甲状腺クリーゼ、粘液水腫性昏睡、副腎クリーゼについて、病態、症候について説明できる。 6. 主なビタミン欠乏症を列挙し、病態、症候、現場活動について説明できる。 <p>血液・免疫系疾患</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 貧血の定義と種類について述べ、主な症候を列挙できる。 2. 止血機能に影響を与える主な薬剤およびその薬剤を服用する疾患を列挙できる。 3. アナフィラキシーの定義を説明できる。 4. アナフィラキシー発症の誘因を分類し、その病態について、呼吸系と循環系を中心に説明できる。 5. アナフィラキシーについて、病態、症候、現場活動について説明できる。 6. 自己免疫疾患の概念について説明できる。 				
成績評価の方法と基準	小テストの合計 (20%)、中間テストの合計 (30%)、総括テスト (50%)				
テキスト・教材等	『改訂第5版 救急隊員標準テキスト』、『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	ガイダンス (授業の進め方と評価方法)、前期授業確認テスト				岩永ひとみ
第2回	代謝・内分泌・栄養系疾患 (総論) について学ぶ、小テスト				松田浩史
第3回	代謝系疾患について学ぶ①、小テスト				〃
第4回	代謝系疾患について学ぶ②、小テスト				〃
第5回	代謝系疾患について学ぶ③、小テスト				〃
第6回	内分泌・栄養系疾患について学ぶ、小テスト				〃
第7回	中間テスト①・解説				岩永ひとみ
第8回	血液・免疫系疾患 (総論) について学ぶ、小テスト				加藤陽一
第9回	血液系疾患について学ぶ①、小テスト				〃
第10回	血液系疾患について学ぶ②、小テスト				〃
第11回	アナフィラキシーについて学ぶ①、小テスト				〃
第12回	アナフィラキシーについて学ぶ②、小テスト				〃
第13回	中間テスト②・解説				岩永ひとみ
第14回	演習				〃
第15回	総括テスト・振り返り				〃

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	疾病救急医学	科目名	疾病救急医学Ⅲ
代表講師	岩 永 ひとみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院) 川 口 久美子 (所属：ゆのはら産婦人科医院)				
授 業 方 法	講義・演習・実技	単位数	2	学期・回数	後期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	・現役助産師が、診療の補助の経験を活かし、妊婦・分娩と救急疾患及び現場活動について講義する。 ・現役医師が、医療の経験を活かし、小児に特有な疾患の知識と傷病者に対する理論的な対応について講義する。				
授 業 概 要	・妊娠による母体及び胎児の変化と、分娩及び新生児への対応に必要な知識と観察・評価・処置及び搬送に必要な知識を総合的に学習する。 ・小児に特有な疾患の知識と観察・評価・処置及び搬送に必要な知識を総合的に学習する。また、被虐待児症候群の概念、種類、疫学、対応について学習する。 ※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。				
到達目標	<p>妊娠・分娩と救急疾患</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠による母体の変化について説明できる。 2. 妊娠に関連した疾患の特徴を列挙できる。 3. 妊娠初期、中期、後期にみられる異常の主なものを列挙し、病態、症候について説明できる。 4. 正常分娩の経過を説明できる。 5. 異常分娩のうち主なものを列挙し、病態、症候、対応について説明できる。 6. 分娩介助の目的、適応、使用する資器材、方法と手順、評価、注意点等を説明できる。 7. 新生児の処置、救急蘇生法、搬送の注意点について説明できる。 <p>小児に特有な疾患</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 正常な発育の目安を説明できる。 2. 健康な新生児、乳児、3歳児、6歳児の呼吸数、脈拍数、血圧の目安を述べるができる。 3. 小児傷病者の病歴聴取、観察の要点、緊急度・重症度判断について説明できる。 4. 小児の代表的救急疾患を列挙し、症候、観察、処置について説明できる。 5. 被虐待児症候群の概念、種類、疫学、対応について説明できる。 				
成績評価の方法と基準	小テストの合計 (20%)、総括テストの合計 (80%)				
テキスト・教材等	『改訂第5版 救急隊員標準テキスト』、『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』 『改訂6版 救急蘇生法の指針2020 医療従事者用』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	ガイダンス (授業の進め方と評価方法)、前期授業確認テスト				岩永ひとみ
第2回	妊婦・分娩と救急疾患について学ぶ①、小テスト				川口久美子
第3回	妊婦・分娩と救急疾患について学ぶ②、小テスト				〃
第4回	妊婦・分娩と救急疾患について学ぶ③、小テスト				〃
第5回	妊婦・分娩と救急疾患について学ぶ④、小テスト				〃
第6回	実技① 分娩介助				〃
第7回	妊婦・分娩と救急疾患について学ぶ⑤、小テスト				〃
第8回	実技② 新生児蘇生				〃
第9回	総括テスト①・振り返り				岩永ひとみ
第10回	小児に特有な疾患について学ぶ①、小テスト				非常勤講師
第11回	小児に特有な疾患について学ぶ②、小テスト				〃
第12回	小児に特有な疾患について学ぶ③、小テスト				〃
第13回	小児に特有な疾患について学ぶ④、小テスト				〃
第14回	小児に特有な疾患について学ぶ⑤、小テスト				〃
第15回	総括テスト②・振り返り				岩永ひとみ

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	疾病救急医学	科目名	疾病救急医学Ⅳ
代 表 講 師	岩 永 ひとみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	後期：15回 (30時間)
授 業 概 要	<p>高齢者疾病と併せて、社会問題となっている高齢者の認知症を含んだ精神疾病の発症機序、病態、症状、所見、及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的・総合的に学習する。</p> <p>※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。</p> <p>※前期授業確認テスト内容：「キャリアデザイン演習Ⅰ / 人間発達学 / 老年期の身体発達、感覚器官、運動機能、認知機能の変化について」の授業内容から出題</p>				
到 達 目 標	<p>高齢者</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う身体機能の変化について説明できる。 2. 高齢者疾患を、個人差、基礎疾患、常用薬、非典型的な症候、合併症をキーワードに説明できる。 3. 高齢者の背景について社会的状況、保険福祉制度、虐待をキーワードに説明できる。 4. 高齢者に特徴的な疾患名を列挙できる。 5. 高齢者救急について、高齢者の特徴をふまえて注意点を説明できる。 6. 認知症の概念、症状について説明できる。 <p>在宅医療</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療法の概念について説明できる。 2. 在宅療法の種類と概要、発生し得る問題点、観察時の注意点と対処法について説明できる。 <p>精神障害</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害を原因、症状の両面から分類し、説明できる。 2. 統合失調症、気分障害、中毒性精神障害等の症候、観察、現場活動について説明できる。 3. 向精神薬の主な副作用について説明できる。 4. 救急現場で頻度の高い精神症候を列挙し、特徴と対応について説明できる。 				
成績評価の方法と基準	小テストの合計 (20%)、総括テストの合計 (80%)				
テキスト・教材等	『改訂第5版 救急隊員標準テキスト』、『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』、Webサイト『健康長寿ネット』				
回 数	授 業 内 容				
第1回	ガイダンス (授業の進め方と評価方法)、前期授業確認テスト 高齢者救急 (総論) について学ぶ、小テスト				
第2回	高齢者救急について学ぶ①、小テスト				
第3回	高齢者救急について学ぶ②、小テスト				
第4回	高齢者救急について学ぶ③、小テスト				
第5回	認知症について学ぶ：認知症サポーター養成講座				
第6回	認知症について学ぶ、小テスト				
第7回	在宅医療について学ぶ、小テスト				
第8回	演習①				
第9回	総括テスト①・振り返り ※総括テスト①の結果は「施設実習Ⅰ」の履修条件となる				
第10回	精神障害 (総論) について学ぶ、小テスト				
第11回	精神障害について学ぶ①、小テスト				
第12回	精神障害について学ぶ②、小テスト				
第13回	精神障害について学ぶ③、小テスト				
第14回	演習②				
第15回	総括テスト②・振り返り				

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	外傷救急医学	科目名	外傷医学 I
代表講師	後藤正和(救急救命士) 前原潤一(所属:済生会熊本病院救急科部長)				
授業方法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	後期:15回(30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	現役医師が、救急医療の経験を活かし、外傷の疫学と外傷システム、部位別外傷の病態生理及び現場活動について講義する。				
授業概要	外傷の疫学と外傷システム、外傷の病態生理及び胸部・腹部・骨盤外傷の受傷機転・病態を理解し、観察と評価・処置・搬送に関する知識を系統的・総合的に学習する。 ※授業連絡や資料配布等には Moodle を利用する。				
到達目標	1. 疫学と外傷システムについて説明できる。 2. 外傷の受傷機転・病態生理について説明できる。 3. 部位別の外傷の観察と評価・処置を説明できる。				
成績評価の方法と基準	小テストの合計(20%)、中間テストの合計(30%)、総括テスト(50%)				
テキスト・教材等	『改訂2版補訂版 JPTEC ガイドブック』、『標準 多数傷病者対応 MCLS テキスト』				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	ガイダンス(授業の進め方と評価方法) 前期授業確認テスト				後藤正和
第2回	JPTECの活動について学ぶ① 小テスト				〃
第3回	JPTECの活動について学ぶ② 小テスト				〃
第4回	ショックについて学ぶ①、小テスト				前原潤一
第5回	ショックについて学ぶ②、小テスト				〃
第6回	ショックについて学ぶ③、小テスト				〃
第7回	中間テスト①・解説				後藤正和
第8回	JPTECの活動について学ぶ③ 小テスト				非常勤講師
第9回	JPTECの活動について学ぶ④ 小テスト				〃
第10回	JPTECの活動について学ぶ⑤ 小テスト				〃
第11回	JPTECの活動について学ぶ⑥ 小テスト				〃
第12回	ドクターヘリ・ドクターカー、DMATについて学ぶ				〃
第13回	中間テスト②・解説				後藤正和
第14回	演習				〃
第15回	総括テスト・振り返り				〃

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	外傷救急医学	科目名	外傷医学Ⅱ
代表講師	後藤正和(救急救命士) 上園圭司(所属:熊本市市民病院救急科医長)				
授業方法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	後期:15回(30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	現役医師が、救急医療の経験を活かし、部位別外傷の病態生理及び現場活動について講義する。				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・顔面・頸部、脊椎・脊髄、四肢外傷等の受傷機転・病態を理解し、観察と評価・処置・搬送に関する知識を系統的・総合的に学習する。 ・環境因子による障害の発生機序、病態生理から観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に学習する。 ※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外傷の受傷機転・病態生理について説明できる。 2. 部位別の外傷の観察と評価・処置を説明できる。 3. その他の外傷や環境障害で生じる損傷の観察と評価・処置を説明できる。 				
成績評価の方法と基準	小テストの合計(20%)、中間テストの合計(30%)、総括テスト(50%)				
テキスト・教材等	『改訂2版補訂版 JPTEC ガイドブック』、『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	ガイダンス(授業の進め方と評価方法) 前期授業確認テスト				後藤正和
第2回	筋・骨格系疾患について学ぶ 小テスト				上園圭司
第3回	四肢外傷について学ぶ 小テスト				〃
第4回	脊椎・脊髄外傷について学ぶ 小テスト				〃
第5回	顔面・頸部外傷、縊頸・絞頸について学ぶ 小テスト				〃
第6回	高齢者の外傷について学ぶ 小テスト				〃
第7回	中間テスト①・解説				後藤正和
第8回	熱傷、化学損傷について学ぶ 小テスト				〃
第9回	電撃症・雷撃症について学ぶ 小テスト				〃
第10回	凍傷(環境障害)、紫外線による障害について学ぶ 小テスト				〃
第11回	刺咬症(傷)について学ぶ 小テスト				〃
第12回	放射線障害(環境障害)について学ぶ 小テスト				〃
第13回	中間テスト②・解説				〃
第14回	演習				〃
第15回	総括テスト・振り返り				〃

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	環境障害・急性中毒学	科目名	環境障害・急性中毒学
代表講師	後藤正和(救急救命士)				
授業方法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	後期：9回(18時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	<ul style="list-style-type: none"> 救急救命士として消防本部に勤務していた教員が、救急現場における救急救命処置等の経験を活かし、中毒物質等による障害の発生機序・病態生理を講義する。 救急救命士として消防本部に勤務していた教員が、救急現場における救急救命処置等の経験を活かし、環境因子による障害の発生機序・病態生理を講義する。 				
授業概要	<p>環境因子、中毒物質等による障害の発生機序、病態生理から観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に学習する。 ※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。</p>				
到達目標	<p>中毒総論、各論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中毒の概念、疫学について簡単に説明できる。 2. 急性中毒の原因と判断に有用な症候について列挙できる。 3. 急性中毒の観察・評価・処置と搬送について説明できる。 4. 中毒に関する情報の収集法について説明できる。 <p>異物</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 異物の定義、病態を簡単に説明できる。 2. 気道異物の観察・評価・処置と搬送について説明できる。 <p>溺水</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 溺水の疫学、概念、病態について簡単に説明できる。 2. 溺水傷病者の観察・評価・処置と搬送について説明できる。 <p>熱中症</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 熱中症の概念、疫学、病態、発生機序、分類について簡単に説明できる。 2. 熱中症の観察・評価・処置と搬送について説明できる。 <p>偶発性低体温</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 偶発性低体温症の定義、発症機序、病態、分類について簡単に説明できる。 2. 偶発性低体温症の観察・評価・処置と搬送について説明できる。 <p>その他の環境障害</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高山病の病態、症候、観察・評価・処置と搬送について説明できる。 2. 減圧障害の種類、病態、症候、観察・評価・処置と搬送について説明できる。 3. 酸素欠乏症の病態、症候、救助、観察・評価・処置と搬送について説明できる。 				
成績評価の方法と基準	小テストの合計(100%)				
テキスト・教材等	『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	ガイダンス(授業の進め方と評価方法) 中毒総論について学ぶ、小テスト				後藤正和
第2回	中毒各論①について学ぶ、小テスト				〃
第3回	中毒各論②について学ぶ、小テスト				〃
第4回	中毒各論③について学ぶ、小テスト				〃
第5回	中毒各論④について学ぶ、小テスト				〃
第6回	熱中症、偶発性低体温症について学ぶ、小テスト				〃
第7回	溺水、異物について学ぶ、小テスト				〃
第8回	高山病、減圧障害、酸素欠乏症について学ぶ、小テスト				〃
第9回	まとめ				〃

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	臨地実習	科目名	救急救命処置実習
代表講師	後藤正和(救急救命士) 池田光隆(所属:熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	実習・演習	単位数	5	学期・回数	前・後期:113回(226時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	元消防官の救急救命士が救急現場での経験を活かし、救急救命士として必要な知識・技術・態度を指導する。				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・講義で学んだ知識を基に、基本的な技術を学習する。 ・講義で得た知識・技術を活用し、高度な救命救急処置を学習する。 ・傷病者や関係者等に対する適切な態度を習得し、医療従事者としての自覚と責任感を養う。 ※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な救急救命処置を何も見ないで実施できる。 2. 基本的な救急救命処置を正確かつ適切な時間内に実施できる。 3. 高度な救急救命処置を何も見ないで実施できる。 4. 高度な救急救命処置を正確かつ適切な時間内に実施できる。 5. 身につけた救急救命処置を総合し、チームの一員として活動できる。 6. 自主的に行動できる。 7. 何事にも凛とした態度で取り組むことができる。 8. 相手に応じた言葉遣いができる。 				
成績評価の方法と基準	スキルチェックの合計(50%)、実技試験(50%)				
テキスト・教材等	『改訂第5版 救急隊員標準テキスト』、『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』 『改訂6版 救急蘇生法の指針2020(市民用・解説編)』、『改訂6版 救急蘇生法の指針2020(医療従事者用)』、『改訂第2版補訂版 JPTEC ガイドブック』				
回数	授 業 内 容				担当講師
全8回	A項目:市民が行う一次救命処置(成人・小児・乳児の心肺蘇生とAED、気道異物除去) スキルチェック				池田光隆 後藤正和
全5回	B項目:ファーストエイド①(止血、被覆、四肢固定) スキルチェック				〃
全5回	C項目:ファーストエイド②(体位管理、体温管理、ボディーメカニクス、徒手搬送法) スキルチェック				〃
全9回	D項目:搬送法(メインストレッチャー、サブストレッチャー、レスキューシート) スキルチェック				〃
全9回	E項目:外傷処置(脊椎運動制限、KED、創傷固定、骨盤固定)、ヘルメット離脱 スキルチェック				〃
全5回	F項目:資機材による観察(聴診器、血圧計、体温計) スキルチェック				〃
全5回	G項目:心電図モニター、12誘導心電計 スキルチェック				〃
全5回	H項目:器具を用いた気道異物除去(喉頭鏡、マギール鉗子、吸引) スキルチェック				〃
全5回	I項目:器具を用いた気道確保、酸素投与(ボンベ取扱い含む)、人工呼吸、補助呼吸 スキルチェック				〃
全4回	水難救助法				〃
全10回	J項目:高度気道確保 スキルチェック				〃
全10回	K項目:ルート作成、静脈路確保と輸液、薬剤投与 スキルチェック				〃
全9回	L項目:医療従事者が行う二次救命処置(チームBLSと特定行為)				〃
全9回	M項目:JPTECに準じた外傷処置				〃
全8回	実技試験(医療従事者が行う二次救命処置、JPTECプロバイダーコース受講)				〃
全2回	2年生による臨地実習報告会参加				〃
全5回	シミュレーション実習Ⅱ実技試験見学				〃

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	臨地実習	科目名	施設実習 I
代表講師	岩 永 ひとみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院) 臨地実習指導者				
授業方法	実 習	単位数	1	学期・回数	後期：45 時間
実務経験内容及び授業内容との関連性	看護師・介護職である指導者が、保健医療チームにおける各種の機能、および業務上の連携、協調のあり方について指導する。				
授業概要	各高齢者施設との連携のもと、入所者やデイケア、デイサービスの利用者との関わりをとおして、高齢者の主観的幸福感や生きがいについて考察し、理解を深める。また、保健医療チームにおける福祉の現状を理解し、救急救命士として業務上の連携、協調のあり方について学習する。 ※授業連絡や資料配布等には Moodle を利用する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者や職員等とのふれあいをとおして社会性を身につけ、自発的に行動することができる。 2. 高齢者について全体像を身体的、精神的、社会的な側面から総合的に説明できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・「古い」による様々な変化を説明できる。 ・安全への配慮、事故防止対策などを説明できる。 3. 救急救命士として高齢者救急の活動について留意点、その他必要な事項を説明できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・対象者に応じたコミュニケーション技法（非言語的コミュニケーション、声の大きさやトーン、話す速さなど）が活用できる。 ・高齢者の特殊性を理解し、救急活動に直接通じる体位変換や移動の介助法を実践できる。 				
成績評価の方法と基準	実習指導者との連携によるルーブリックを用いた実習態度評価（50%） 専任講師によるルーブリックを用いた実習日誌評価（50%）				
テキスト・教材等	臨地実習要項、『改訂第 10 版 救急救命士標準テキスト』他				
期 間	授 業 内 容				
1 週間	<p>事前学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ホームページ等を活用した実習先の位置、概況等の調査 2. 前年度の申し送りノートの記載事項確認 3. 事前学習課題（実施要項に記載） <p>履修条件</p> <p>次の条件を満たしていない場合は臨地実習に必要な知識・技術を修得していないと判断し、実習を許可しないことがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前学習課題レポートの内容が優れていること。 2. 疾病救急医学Ⅳ（高齢者）総括テストに 80%以上で合格すること。 <p>実習施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別養護老人ホーム天寿園 ・介護老人保健施設ケアセンター赤とんぼ ・グループホーム おやまの郷 ・共生型デイサービス サン・フレンズ光の森 ・デイサービス ぼぼろ ・第二コスモピア熊本 ・陽かりの郷 ・デイサービスぼぼろ 八王寺 ・デイサービスセンター明里 ・特別養護老人ホーム 悠優かしま ・あおぞらの里 西原デイサービスセンター ・シルバーピアさくら樹（デイサービス） ・清雅苑 ・花へんろ 				